

# 三重・森本地域まちづくり計画

## 手をつなぎ みんなで創る元気な<sup>まち</sup>地域 ～～少子高齢化社会へのたくましい挑戦～～

スローガンには、子どもからお年寄りまで区民すべての人が手をつなぎ、元気で生き活きとした<sup>まち</sup>地域を創りたいとの思いを込めた  
また、少子高齢化が進むなか、過疎化に負けない、地道でたくましい地域づくりに挑戦することをサブスローガンとした



花いっぱい運動（三重）



住民出資の株式会社が農地を管理（森本）

平成 26 年 3 月  
三重・森本地域（三重・森本）

## 三重・森本地域まちづくり 目次

	ページ
1 はじめに	1
2 計画策定の趣旨	1
3 計画の期間	1
4 地域の将来像（スローガン）	1
5 基本方針	1
6 三重、森本区の現状と課題	2
7 基本方針別に現状と課題をみると	
(1)生き活きとした魅力ある地域づくり	4
(2)地域で支え合う安らぎの地域づくり	5
(3)地域資源や宝を生かした地域づくり	7
(4)安心安全で暮らしやすい基盤づくり	9
8 現状と課題に対する具体的対策	
(1)生き活きとした魅力ある地域づくり	11
(2)地域で支え合う安らぎの地域づくり	13
(3)地域資源や宝を生かした地域づくり	15
(4)安心安全で暮らしやすい基盤づくり	16
9 今後5年間の重点対策	19
10 三重・森本地域まちづくり計画の体系	20
別表 地域における現状と課題、対策のまとめ	21
資料 住民アンケート結果報告	
構成員名簿・活動日誌	
平成26年度以降整備計画	

# 三重・森本地域まちづくり計画

## 1 はじめに

私たちが暮らす三重・森本は、竹野川上流部に位置し、極上の水と空気、そして豊かな自然環境、貴重な歴史遺産に恵まれた地域である。先人のたゆまぬ努力によって維持されてきたこの地域を、これからも私たちの力で大切に守り育てなければならない。

しかし、他地域と同様に若い人は働く場を求めて都会へ流れ、少子高齢化が深刻化し地域力減退の状況にある。依然として経済状況も厳しく、農業においても担い手不足や遊休農地が問題化している。また区の運営も、自治組織としての機能は果たしているものの弱体化傾向にあり、実施する事業などもその場しのぎで、将来を見すえた計画的な取り組みができていない。このようななか、これからの地域づくりのあり方、進むべき道は住民が主体となって考え計画的に取り組み、行動していくことが重要になっている。

## 2 計画策定の趣旨

この計画は、歴史的にも地形的にも関係が深い三重と森本が一緒になって話し合い、さまざまな課題や問題点、そして地域づくりの方向や対策、基本方針などをまとめたものである。豊かな農村環境を末永く未来に残し、子や孫が安心して住み続けられるよう、その実現に向けて一歩でも前進させるための指針を示したものである。

## 3 計画の期間

平成 25 年度から平成 34 年度までの 10 年間とする。

但し、必要に応じて見直すこととする。

## 4 地域の将来像（スローガン）

『手をつなぎ みんなで創る元気な地域』

～ 少子高齢化社会へのたくましい挑戦 ～

## 5 基本方針

地域の将来像を実現するための基本方針を次の4項目とする。

- (1) 生き活きとした魅力ある地域づくり
- (2) 地域で支え合う安らぎの地域づくり
- (3) 地域資源や宝を生かした地域づくり
- (4) 安心安全で暮らしやすい基盤づくり

## 6 三重・森本区の現状と課題

三重、森本集落は、国道 312 号から入る京丹後市の南の玄関口で、竹野川の上流部に位置する中山間地である。両区の中心付近が出入り口になる高規格道「野田川大宮道路」の工事が平成 28 年度末完成をめざし進行中、開通すれば京阪神へのアクセスが良くなる。

両区人口は、表 1「人口と世帯数の推移」のとおり平成 25 年 5 月が合計 547 人。33 年前の昭和 55 年 1 月と比べると 230 人（29.6%）と大幅に減少している。さらに、平成 25 年 5 月現在の表 2「人口ピラミット」でわかるように、高校生以下の人口が大きく減る一方、高齢化率（65 歳以上の高齢者の割合）は 35.3%（三重 34.4%、森本 36.6%）と高く、少子高齢化が年々進み地域力減退の要因になっている。

表 1「人口と世帯数の推移」

地区名	33 年前 昭和 55 年 1 月		20 年前 平成 5 年 2 月		現在 平成 25 年 5 月	
	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数
三重	465	123	443	135	334	143
森本	312	77	302	75	213	78
合計	777	200	745	210	547	221

産業は、古くから農業と織物業が中心であったが、織物業はほとんどなくなり、また専業農家も減り、ほとんどが会社勤めか、或いは勤めが中心の兼業農家である。高齢化に伴い、年金生活の世帯も年々確実に増えている。森本区では大型区画のほ場整備が平成 26 年度末（予定）に完了するとともに住民出資の「京丹後森本アグリ株」の設立により、多くの農地を管理する仕組みができています。



憩いの広場からみた天下の絶景「天の橋立」

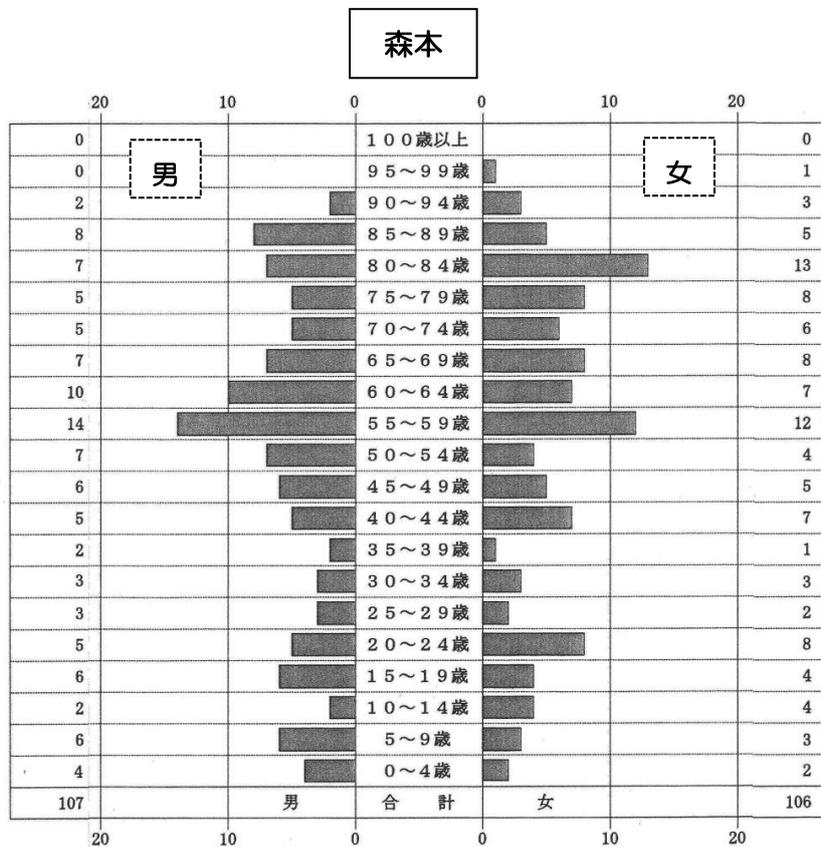
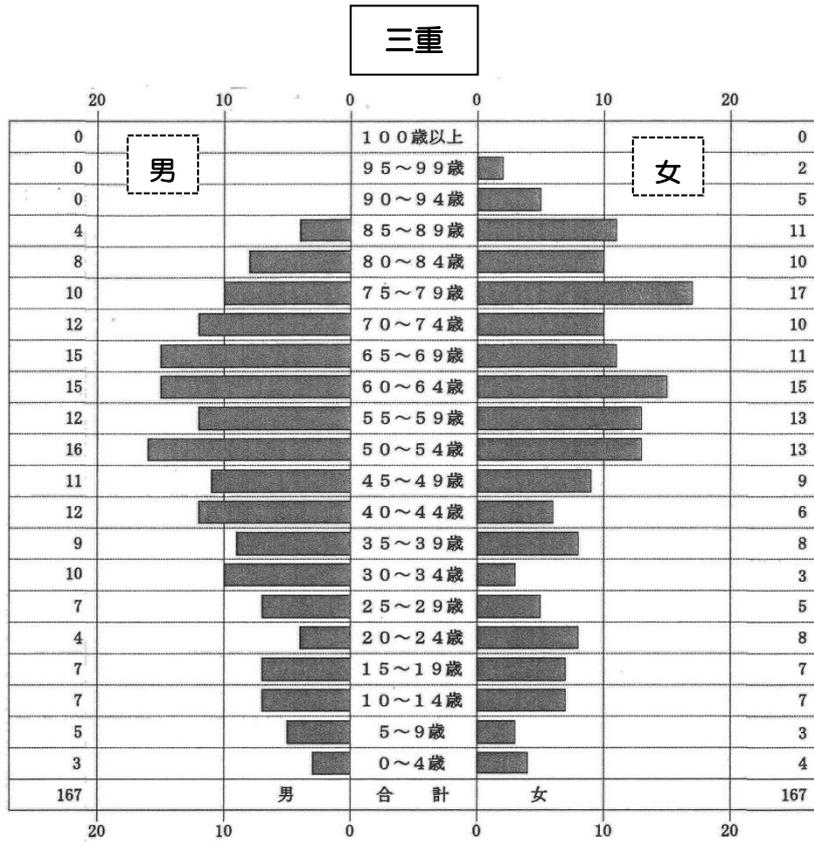
三重から与謝野町に抜ける大内峠は江戸時代に参勤交代で使われた道。三重の大川神社は安産の神、愛宕神社は火の神として知られる。寺は萬歳寺（曹洞宗）がある。

名所史跡としては、森本の市指定文化財「立石大逆修塔」は、「右坂地蔵」「左坂地蔵」とともに有名。また、稲荷神社にある五色椿は数種類の色をつける。寺は興勝寺（臨済宗妙心寺派）がある。

丹後縦貫林道沿いにある三重の「憩いの広場」からは、日本三景の天の橋立が横一文字に眺望できる。（写真左）また、

表2「人口ピラミット」

【平成25年5月1日現在】



## 7 基本方針別に現状と課題をみると

### (1) 生き活きとした魅力ある地域づくり

#### ① イベントについて

三重、森本両区ともに、納涼祭（夏祭り）、万灯、地蔵盆、秋祭りなどが定着したイベントとして毎年開かれている。特に万灯は、お盆の夜のイベントとして地域住民、帰省客などから好評である。



森本ふるさと広場で開かれた納涼祭

ほかにも、三重区では各家庭に花の苗を配ったり沿道にプランターを並べる花いっぱい運動や公民館行事として区民ハイ

キング大会、文化展などを行っている。森本区でも、カヌーやボートを使う竹野川クリーン大作戦や子ども対象の環境保全活動など。美しい森本を印象づける花壇整備は女性グループが担当、公民館行事の歩こう会、グラウンドゴルフ大会も区民交流の場となっている。

イベントの目的は人材育成と世代間交流である。両区ともに定着したイベントがたくさんあるが、スタッフや参加者の停滞、固定化やマンネリ化がおきている。そして働き盛りの若者は、仕事、消防、地域行事、子育て、学校行事などで参加したくてもできない状況が一部で見られる。また、地域行事にまったく参加しない人もいる。

秋祭りや地蔵盆など子どもが参加する行事は、子どもの減少で運営に支障がでている。

また、イベントなどに対する考え方、価値観が年代により温度差がある。女性の活躍の場が少ないことも課題である。新たな魅力あるイベントを望む声がある一方で、役員の負担を心配する声もある。イベントを実施するときの各種備品類の充実が必要である。

#### ② 伝統行事について

秋祭りは、三重区が神楽・楽（がく）・笹ばやし、森本区は太刀振り・笹ばやしと、両区ともに行われているが、子どもの減少とスタッフ不足で継続が危ぶまれている。一方で秋祭りの伝統行事がなくなることを心配する声も多くある。

また、地蔵盆も子どもの減少で以前より活気がなくなってきた。

その他、三重区では三重神社例祭、愛宕神社例祭、大川神社例祭、薬師堂例祭などがある。特に、毎年5月4日深夜に新婚さんを祝福する伝統行事、奇習「のぼりたて」は将来にわたり引き継いでいきたい。森本区でも大屋神社例祭、秋葉神社例祭がある。秋祭りの太刀振りは、地元を離れている人も当日は帰ってきて参加したくなるような魅力ある伝統行事である。

#### ③ 観光・特産物育成について

丹後縦貫林道沿いにある三重区の「憩いの広場」からは、日本三景のひとつ天の橋立の松並木が横一文字に見える天下の絶景。2年前に開通した林道「奥寄線」は区民の永年の願いで実現したが一体的な活用がされていない。三重区から与謝野町に抜ける大内峠は江戸時代に参勤交代で使われた道である。森本区にある市指定文化財「立石大逆修塔」は、「右坂地蔵」「左坂地蔵」とともに有名であるが、管理が行き届いていない。

特産物と呼べるものは米以外にない。三重区の「かあちゃん漬け」のようなものがないか。休耕田、遊休農地の活用や空き家の活用。高規格道「野田川大宮道路」が3年先の平成28年度末に開通予定で丹後に入ってくる人の流れが変わる。

#### ④ その他

少子高齢化が進み地域力が弱くなっている。

子どもが都会に出ていく。帰ってこない。

未婚の人が多い。

価値観の多様化で地域行事がやりにくくなってきた。

区民の情報の共有化ができていない。

まだまだ男性社会である。女性の意見をもっと聴いてほしい。

公民館の各種備品類が不足している。

## (2) 地域で支え合う安らぎの地域づくり

### ① コミュニティ活動について

両区ともに、公民館、村づくり委員会などの各種団体があり、連携して地域活性化のための活動をしているが、女性や高齢者の活動の場が少ない。とくに区政などの運営で女性の意見が聞けてない。また、何事にもリーダー不足で組織の役員を同じ人が何回もしなければいけない。住んで良かったといえる地域をつくるため、もっと住民一人ひとりが自ら考え行動することが求められる。区運営や各種行事に全く無関心な人もいる。



老朽化したコミュニティの拠点 森本公民館

区長業務が多忙である。専門性が要求されつつあり事務量が増えているが、区独自に事務員を置くことは不可能である。

公民館活動は、歩こう会やグラウンドゴルフ大会など趣向を凝らした取り組みが行われておりコミュニティづくりに大いに役立っている。

三重区民グラウンドは地域の宝であるが、フェンスが倒れ、草が生え、デコボコで地域の

荷物になっている。一部で利用はあるもののもう少し多くの住民が集える魅力ある場所にすることが必要である。また、下三重集会所が老朽化している。

第三小学校のグラウンドが使えなくなったので、森本区の住民が気軽に使える運動場がない。また、コミュニティづくりの中心的な施設である森本公民館が老朽化している。

## ② 福祉の取組みについて

### 《児童福祉》

少子化が年々進み、秋祭りや地藏盆などの行事の運営が危ぶまれている。

近年、子どもを対象とした事件が数多く発生しているが、子どもを地域の宝とし、日常的な声掛けや見守りを地域全体で行うことが求められる。

また、ボランティア活動を一緒に行うなど大人から進んで子どもへの関わりを深めることが大切である。

子どもの遊び場がないので、遊具を設置した遊び場や子育ての不安や悩みを話し合う場が必要である。



子育てサロン「あいあい広場」

### 《高齢者福祉》

三重老人会は良きリーダーに恵まれいろいろな行事を展開しているが、新規加入者が少ない。森本老人会は解散したままである。

両区合同で開いている「敬老を祝う会」は、出席率 45% (H25) で出席者が少ない。両区でそれぞれ開いている「ふれあいサロン」は、趣向を凝らした行事が組まれ楽しい憩いの時間として喜ばれているが、一方で参加者が同じような顔ぶれとなっている。運営をサポートする人の増員も課題である。

一人暮らし老人を中心に老後の生活を心配する声が強い。健康、通院、買い物、介護など。なかでも積雪時の雪すかしは地域でボランティアを募り支援できるのではないかな。

## ③ 防犯、防災対策について

防犯については、集落内で街灯がなく暗い場所がある。中学生がクラブ活動で帰宅が遅いと暗くなり心配である。大宮南小学校では通学時の「子ども見守り隊」ができた。

また、振り込め詐欺など高齢者を狙った詐欺事件が京丹後市でも多く発生している。

防災については、私たちの地域は私たちで守る「自主防災組織」が両区ともに設立された。必要な各種備品類の充実とともに消防団と連携した活動が大切になる。定期的な防災訓練や防災に対しての啓蒙活動、特に高齢者に対しての災害時や緊急時の避難体制や声掛けマップづくりが重要になる。

また、想定外の大災害（地震、風水害など）が発生した時の区役員の相談・連絡体制、区民が助け合う仕組みがない。

#### ④ 自然環境対策について

区や農事組合などが中心になり、農道などの草刈りや水路掃除などを行っている。この活動は、花いっぱい運動とともに美しい村づくりの意識づけにつながり今後も続けなければいけない。竹野川堤防は通行が少なく草や木が生え管理が行き届いていない。とくに三重橋付近の木が大きくなり災害発生の原因になる。

美しい村づくりのため、集落の要所に桜苗木の植樹を行うと共に、三重グラウンドや三坂峠などにある桜を保護するため「テング巢病」の除去が必要である。

森本村づくり委員会が、毎夏、竹野川クリーン大作戦を行っている。

森本集落の林道横を流れる宮の奥水路は、土砂に埋もれ災害が発生する危険性があるの  
で以前から改修が必要な箇所である。

里山が荒れている。竹林がだんだん広がっている。自然環境保全に対する住民の意識向上を図るとともに、森本区で行われた「生き物調査」や「絶滅危惧種ミクリの移植」など当地域の豊かな自然を守ることの大切さを子どもたちに伝える取り組みの継続が課題である。

集落排水が整備され、両区ともに家庭排水が川に流れることは少ない。

#### ⑤ その他

両区ともに長期的な地域づくり計画がない。進むべき方向性が分からない。

### (3) 地域資源や宝を生かした地域づくり

#### ① 農産物の販売対策、地産地消対策について

米（コシヒカリ）が主になる。三重米、森本米などとして付加価値（ブランド化）をつけ独自販売ルートでの確立が課題である。森本区においては一部小菊の生産が始まっている。昔から、「森本蕪（かぶ）」に「三重牛蒡（ごぼう）」と言って、土壌が適していることから、かぶは森本区、ごぼうは三重区で採れたものがうまいと言われていたが、今ではほとんど忘れられている。

野菜類の販売は少なく自家消費がほとんどであるが、三重区では一部、野菜などの「売り歩き」が今でも行われている。地元で採れた野菜などの直販所がない。また、地元非農家の野菜類の購入先はほとんどがスーパーマーケットである。

#### ② 農地・山林の保全対策、営農組織の再構築について

森本では、大型区画のほ場整備が完了した。そして農地の大部分を住民共同出資の営農組織「京丹後森本アグリ株」が受け持つ。後継者不足と従事者の高齢化が進むなか、農地

を守る組織ができたことは大きな強みである。

一方、三重のほ場整備は約 30 年前に終わっているが、集落営農組織がなく、後継者不足と高齢化の進行で水田の約 15%を地区外の農業者に委ねている。今後も進むことが予想される。三重区の農地や農業をどう守るか、担い手や機械の共同利用、作業受委託など将来の方向性を話し合い共通認識にして実践することが求められる。

両区ともに山の谷や山の近くにある農地の多くは荒廃が進んでいる。農地に戻すことが不可能と思われる場所もある。水路や農道など農業用施設も老朽化で痛みが見受けられるようになった。土道（つちみち）では農道の管理ができない。荒廃農地、遊休農地の拡大防止策の検討が急がれる。

山林は、一部の人工林は管理されているが雑木林は放置されたままである。周囲を山に囲まれた当地域は森林整備を進めることはとても重要なことである。また、竹林の放置も広がりつつあり目立っている。

### ③ 有害鳥獣対策について

イノシシやシカによる被害は深刻である。年間かなりの数が捕獲されているが、それでも確実に増えている。20～30 年前の数に戻さなければ農業は続けられない。

田や畑が荒廃していく原因にもなっているが、効果的な対策は見つからない。

これまでと同様、共同でフェンスや電気柵を設置するなど地域ぐるみの取組みの強化が課題である。



三重生産グループの「かあちゃん漬け」

### ④ 加工農産物、特産品づくり対策について

三重区の「かあちゃん漬け」や大根の漬物、こんにゃく、味噌などがあるが販売はほとんどしてない。特産品と呼べるものはないが、丹後コシヒカリに代表される米はどこに出しても一級品である。

### ⑤ 共同作業場、共同農機具利用組合の組織対策

森本区では、住民共同出資の営農組織「京丹後森本アグリ㈱」が設立され、将来を見据えて農地を守り管理する基盤ができています。ソフト面の充実が課題です。

三重区は、共同作業場や農機具利用組合は一部グループがあるほかはない。小規模兼業農家が多く、それぞれ農機具を所有して水田を管理している。担い手不足や農業従事者の高齢化が深刻で、三重の農地や農業の将来を真剣に話し合う場が必要である。

### ⑥ 農道舗装、水路整備など農業基盤整備対策

地域全体では、ほ場整備はほぼ完了しているが、昭和 40 年代後半に行われた三重地内

のほ場整備の水路は素掘りで、砂がたまり水の流れが悪い。また、両区ともに農道が土道（つちみち）でデコボコ、草が生えて管理できてないところが多い。農業用水路も傷んでいる箇所が多い。

#### ⑦ その他

人口が減っている。空き家の整備と有効活用が求められる。

### (4) 安心安全で暮らしやすい基盤づくり

#### ① 道路・歩道の新設・改良

地域内の府道、市道及び道路横の水路の改良、改修が必要なところが多い。

とくに、三重集落内の道路は狭くて曲がっているので、車がすれ違えないところがあり交通事故の発生が心配されるし大雪や災害時に困っている。

#### ② 河川改修の整備について

竹野川は堤防を含めて改修が必要な箇所がある。また、砂が溜まって中州になっているところが一部ある。堤防を整備し健康づくりのためのウォーキングコースとして利用する。

昭和 49 年頃に設置されたファブリダムは、両区ともに耐用年数が大幅に経過し老朽化して早急な改修が必要である。

両区ともに集落を流れる井溝は、農業用水、生活用水、防火用水を兼ねているが、相当傷んでいることから抜本的な改修が必要である。

#### ③ 公共施設について

三重生活改善センターには駐輪場がないので、雨の日にお年寄りや子どもたちの自転車や手押し車を置く場所がない。三重グラウンド周辺をもっと魅力ある場所にできないか、特に遊具を設置して子どもの遊び場になるようにしたい。下三重集会所の老朽化は深刻である。

森本公民館も老朽化し狭いし、駐車場もない。第三小学校のグラウンドがなくなるので区民が交流する運動場がなくなり子どもの遊び場がない。森本簡易水道の管理が水番だけでは将来できなくなるのではないかと心配である。

#### ④ 健康づくりについて

健康づくりのために毎日歩いている人が多い。竹野川堤防や農道を舗装するなど遊歩道の整備が必要である。正しい健康情報を伝えるとともに健康教室などを開くことも課題である。公民館行事として、グラウンドゴルフ大会や歩こう会が開かれている。また、市総合健診の受診率をアップさせる取り組みも必要である。

#### ⑤ 生涯学習について

公民館活動で文化展や子どもを対象にした行事が行われている。ふれあいサロンも充実

している。また、小グループで大正琴やグラウンドゴルフ、ゴルフなどの趣味の会も多くある。パソコン教室や歴史を知る会など区民の要望を聞いた講演会や研修会など学習の場の設定が課題である。

#### ⑥ 働く場について

働く場がない。若者が地元に戻りたくても帰れない。働く場さえあれば帰ってくる。森本工業団地の企業誘致を望む。

#### ⑦ 公共交通について

高齢者や通学の足の確保のためバス等の公共交通の運行回数の増加を望む。三重区内を走るバスがなく不便である。

#### ⑧ 人口増加対策について

少子高齢化、過疎化がどんどん進んでいるし未婚者が多い。働く場があれば若者は帰ってくる。体験入村ができるようなシステムづくり。集落内の農地に家屋が立てやすくなるよう農地転用の規制緩和を望む。

#### ⑨ その他

田舎の良さや地域の宝を見つけて外に向けて発信していく。

将来、地域がどういう方向に進むのか計画づくりが大切である。

#### 地域で新婚さん祝福 奇習「のぼりたて」

百年以上も前から三重に伝わる奇習「のぼりたて」。毎年、5月4日深夜、この1年間に結ばれた夫婦を祝福し子宝を願って地域住民が行う。

数十人の村人が長いのぼり竿に、むしろ、みい、一輪車、自転車など手当たり次第にくくりつけていく（写真）



現状と課題に対して、三重、森本区を元気にするための具体的対策をまとめた。

## (1) 生き活きとした魅力ある地域づくり

### ① イベントについて

- イベントの目的は、人づくりと住民の交流である。それぞれ意味があって開かれているもので続けていく事に意義がある。継続は力になる。
- 万灯と納涼祭は、地域に根付いた真夏の夜の一大イベント。帰省客や地域住民に大好評であるのでこれからも続けていく。大学生や都会の人を呼び込み一緒に行うのも面白い。また、三重と森本の万灯を竹野川堤防でつなげることを検討する。三重の万灯は森本と同じように、天ぷら油など自然にやさしい方法で行うことが必要ではないか。
- 公民館活動も活発に行われている。歩こう会やグラウンドゴルフ大会などの行事は区民交流の場、生涯学習の場になっているので一層の充実を図っていく。参加者が固定化しつつあるが、参加しやすい環境作り、声掛けなどでより多くの人に呼びかけていく。
- 三重、森本間の道路が広く美しくなったので、歩道に花のプランターなどを置いておもてなしの心を表し、美しい村づくりを両区で話し合う。
- 行事のマナー化の指摘があるので中身の見直しも必要である。スタッフ不足や役員の負担軽減についてはイベント実施の段階で十分な話し合いが必要である。人が動き、集まり交流することで地域は元気になる。
- 新たな地域活性化イベントに取り組む団体、組織への支援を行う。
- イベントなどに利用する備品類の充実を図る。
- 新たなイベントの検討。
  - ・ 三重、森本区に流れる谷川を活用したビオトープ整備
  - ・ 未婚者が多いので婚活イベント
  - ・ 地域の特産を活かした行事
  - ・ 三重、森本区の歴史、文化財、その他見どころをウォーキングする大会
  - ・ 三重、森本区の村歌（そんか）をつくる
  - ・ 巨大スクリーンで映画を映す「野外映画祭」
  - ・ 三重谷一帯を表す地名呼称の公募、発表イベント
  - ・ 短歌、俳句に関心のある人、三重谷の風物を読む会など
  - ・ 全国に誇る「丹後産特 A コシヒカリ」を手で植えて、かまどで炊いて食べる会
  - ・ 三重・森本区の見どころマップを作成する

### ② 伝統行事について

- 秋祭り行事、地蔵盆など伝統行事についても、それぞれ地域に根付いたものであり続けることに意義がある。スタッフ不足も深刻であるが、区役員を加えるなど十分に話し合うことが必要である。秋祭りの大切さ、重要性は皆が認識している。
- 新婚さんを祝福する三重の「のぼりたて」は、有名な行事になった。これからも続けていきたい。
- 少子化が進んでいるが、森本の太刀振りも続けなければいけない行事である。
- 三重、森本区の歴史が理解できる資料、マップ作成。
- 秋祭り等の伝統行事に必要な備品類の充実。

### ③ 観光、特産物について

- 三重大内峠の「憩いの広場」をきれいに整備する。また、奥寄り林道付近の開発を進め、地元の食材を提供できるログハウスをつくり、新たな特産物をお客さんと一緒に考える。
- 森本区の市指定文化財「立石大逆修塔」や「右坂地蔵」「左坂地蔵」を整備して観光に生かせないか。
- 五十河の小町の里の入り口の村として何かできないか。
- 高規格道「野田川大宮道路」の開通を見こして、
  - ・コンビニ、休憩所（食事、地元野菜、米などの販売）を設置。
  - ・農業体験やオーナー制度など農業を観光に生かす取り組み。
- 味が良いとされる「三重ごぼう」と「森本かぶ」の栽培を奨めて特産物とする。
- 三重で一部販売されている「かあちゃん漬」や味噌（コシヒカリで米こうじ）を特産化する。また、大根の酢漬、たくわん、こんにゃく等もある。次の世代に伝える取り組みも必要である。
- 特産物づくりをしようとしている団体の支援をする。

### ④ その他

- 婚活イベントを実施する。
- 空き家の調査をして空き家の利活用を検討する。
- 区政や各種組織の運営に女性の意見を聞く。
- 丹後縦貫林道の活用（マラソン大会、ハイキング大会など）。
- 多くの女性から意見を聞く。
- 区や公民館だよりを発行して、いろんな情報を区民に伝える。
- 三重、森本公民館に必要な各種備品類を充実させる。

## (2) 地域で支え合う安らぎの地域づくり

### ① コミュニティ活動について

- 公民館活動や村づくり委員会、農事組合など各種団体の活動を支援し、地域の活性化と一層の人材育成を進める。人づくりが村づくりである。
- 区長業務が忙しい。多様化する区民要望に少しでも応えることができる区体制にすることが必要。少子高齢化がどんどん進んでいるので、三重区、森本区、五十河 5 地区を含めた広域的な自治組織の設立を検討していく。
- 区民だより、公民館だよりなどを定期的に発行し、情報を区民に流しコミュニティ意識の向上を図る。
- 三重グラウンドを整備し、遊具を置き子どもの遊び場にするると共に、花を植えるなど魅力ある区民の憩いの場にする。
- 森本区に区民が集える運動場の新設と遊具を備えた子どもの遊び場をつくる。
- 三重と森本区、さらには五十河地区も含めた合同運動会の開催を検討する。
- コミュニティづくりの中心的な施設となる森本公民館の新築をする。
- 三重、森本の各家庭にプランターと花の苗を配布し、合同の花いっぱい運動を展開し、区のコミュニティの充実を図るとともに美しい村づくりを進める。
- コミュニティ活動に必要な施設、各種備品類のリストを作成し、優先順位を定めていろいろな事業と関連づけて京丹後市、京都府、国へ要望する。

### ② 福祉の取組みについて

#### 《児童福祉》

- 子どもは地域の宝とし、日常的な声掛けや見守りを地域全体で行う。特に大宮南小の「子ども見守り隊」の登下校時の活動には積極的に協力する。
- 子育ての不安や悩み、そして遊びを通じて若いお母さんと子どもが交流する「あいあい広場」の充実を図る。
- 遊具などを設置した子どもの遊び場をつくる。
- 子どもに自然の中での遊びを経験させることも大切。また、しめ縄づくり、わらそうり、竹とんぼ、竹馬など昔の遊びや風習を教え伝える。
- 地域の行事にできるだけ子どもが参加できるようにしていく。

#### 《高齢者福祉》

- 「ふれあいサロン」により多くの高齢者が参加できるように声掛けを行う。  
また、スタッフの増員をめざす。
- 森本老人会の再結成を検討する。
- 福祉委員会のスタッフと内容を充実させる。

- 気軽に高齢者が集まり世間話のできる「ふれあいミニサロン」の設置、空き家などを改修してつくる。
- 地区運営について高齢者の意見を聴く。また、高齢者が培ってきた知識や経験を発揮する活動の場を提供する。
- 両区合同で行っている「敬老を祝う会」は、地域をあげて祝い、出席者にとって魅力ある行事にする。
- 公民館などが利用する施設のバリアフリー化を補助事業などで進めていく。
- 隠居の高齢者にも市広報誌やお知らせなど情報が届くよう配慮する。
- 災害時要支援台帳の充実とマップの作成を図る。
- 高齢者のための買い物、病院等への送迎など有償ボランティア制度を検討する。
- 冬季の積雪時、一人暮らし老人宅等の雪すかしを行うボランティアを募り、除雪体制を整える。
- 一人暮らし老人、高齢者世帯への声掛けや話し相手などは、とくに隣近所や隣組長、民生委員などが日常的に心がける。

### ③防犯、防災対策について

- カーブミラーや街灯、ガードレールの新設や補修をして交通安全、防犯対策を強めていく。
- 施錠や金銭管理の日常的な注意喚起が必要である。
- 両区で設立されている自主防災組織と消防団の連携と活動の充実。定期的な防災訓練の実施。防災資器材の充実を補助事業で取り組む。
- 防犯灯のLED化を進める。
- 集落内危険個所のマップづくりを、消防団やPTA、福祉会などと連携して進める。
- 災害時の区民の避難マニュアルと災害時要支援者救済の対応マニュアルづくりを検討する。

### ④自然環境対策について

- 両区の谷川を活用したビオトープを整備する。
- 三重グラウンドや三坂峠などにある桜の木の「テング巢」病を除去する取り組みを検討する。
- 花の苗を各家庭に配り美しい村づくりを進める運動を両区で行うとともに、改修された三重、森本間の歩道に花のプランターを置くよう話し合う。
- 森本村づくり委員会の竹野川クリーン大作戦は、環境問題を考えるイベントとして継続してほしい。
- 集落排水（下水）への接続者が少ない。環境に配慮することは大切なことで、竹野

川をきれいな水にするためにも接続が多くなるよう働きかける。

■里山や竹林の整備、また必要な林道、農道、水路改修を補助事業で計画的に行う。

### ⑤その他

■三重・森本里力再生計画とは別に、それぞれの区の将来計画となる地域づくり計画を策定する。地域づくりの方向性を示し行動指針とする。

## (3) 地域資源や宝を生かした地域づくり

### ① 農産物の販売対策、地産地消対策

■米は天下の「丹後のコシヒカリ」である。三重米、森本米としてブランド化し独自ルート販売を研究する。また、インターネット販売も検討していく。

■3年後に開通する高規格道「野田川大宮道」の開通を見越して、農産物の直販所や朝市などの設置を検討していく。

### ② 農地・山林の保全対策、営農組織の再編について

■地域を守ることは農地と山を守ることである。農地と山を守ることが地域を守ることにつながる。農家、非農家にかかわらず農地と山は住民全員で守らなければいけない。

■美しい野山と農村風景の保全を図るため、次の対策を研究し実施する。

- ・ 集落周辺の山林のすそ刈り（わち刈り）、立木伐採などの手入れ作業
- ・ 竹野川及びその支流の草刈りなど環境整備作業
- ・ 林道の整備及び造林の手入れと間伐材の有効利用
- ・ 荒廃竹林の整備と竹林の有効活用
- ・ 井溝掃除、河川整備など区民共同で作業する区役の存続
- ・ 荒廃農地の防止と再利用
- ・ 農道、水路、ため池など農業用施設の改良整備と新設
- ・ 区内の農業実態や課題の把握とその対策を検討

■将来の農業の方向性を示した農業プランを策定し次の対策を研究実施する。

- ・ 中核的農家の育成と農地の集積
- ・ 農業機械の共同利用や共同作業、農作業の受委託
- ・ 集落営農組織と農業法人の設立の話し合い
- ・ 朝市、農産物直販所の設置など

■将来にわたり地域全体の農地を守っていく体制づくりが急がれる。特に三重区の農業は個人零細経営、農作業受委託や農機具の共同利用などの農業組織を設立して後継者不足、担い手不足を補う対策が急がれる。

■跡継ぎがない世帯の農地、山林をどうするかの研究を進める。

### ③有害鳥獣対策について

■補助事業で電気柵、金網柵を設置し、イノシシとシカ対策を強化する。また、隣接している三重と森本両区が共同で対処する方法も考えなければいけない。

■侵入を防ぐことも大切だが、わなやオリの設置で捕獲を強化し個体数を減らさないと被害が減少しない。

■山すそを 10～15mほど切り開くと警戒して降りてこないこともあるので、山すその雑木林を切る。

### ④加工農産物、特産物づくり対策について

■三重生産婦人グループで一部販売している「かあちゃん漬け」やコンニャク、味噌（コシヒカリで米こうじ）を特産品として売り出す。また、そのための施設整備や備品類の充実、スタッフの補強を行う。

■高規格道「野田川大宮道」の開通を見越して、先進地視察などを行い地域にあう特産物を研究する。

■コシヒカリの有機栽培、減農薬栽培を推進して特産物とする。

### ⑤共同作業場、共同農機具利用組合の組織対策

■三重区では、将来の農業の方向性を示した農業プランを策定し次の対策を研究実施する。

- ・農業機械の共同利用や共同作業、農作業の受委託
- ・集落営農組織と農業法人の設立の話し合い

■森本区では、「京丹後森本アグリ㈱」が設立されているので、ソフト面を充実していく。

### ⑥農道舗装、水路整備など農業基盤整備対策

■整備が必要な農地、農道、水路、ため池など農業用施設リストを作成し、優先順位を定めていろんな事業と関連付けて、京丹後市、京都府、国に要望する。

### ⑦その他

■空き家を調査し利活用を検討する。

## (4)安心安全で暮らしやすい基盤づくり

### ①道路・歩道の新設、改良

■整備が必要な道路（側溝、水路含む）などのリストを作成し、優先順位を定めていろんな事業と関連付けて、京丹後市、京都府、国に要望する。

■整備が必要なガードレール、カーブミラー、防犯灯等交通安全施設設備のリストを

作成し、優先順位を定めている様々な事業と関連付けて、京丹後市、京都府、国に要望する。

■三重区に、京丹後市貸与除雪機の早期配置をする。

■三重バイパスの早期実現を図る。また、三重の高規格道の工事用仮設道をそのまま残してもらい、三重バイパスの一部として整備し利用する。

## ②河川改修の整備促進について

■改修の必要な河川、水路等のリストを作成し、優先順位を定めている様々な事業と関連付けて、京丹後市、京都府、国に要望する。

■昔のように魚釣りができる竹野川にする。

■竹野川にある中州の砂の撤去や堤防の木々の伐採を行う。

■竹野川にある森本と三重両区のファブリダムをそれぞれ改修整備する。

■散歩やウォーキングができるよう竹野川堤防の舗装整備を進める。

## ③公共施設について

■整備の必要な公共施設、備品、設備等のリストを作成し、優先順位を定めている様々な事業と関連付けて京丹後市、京都府、国に要望する。

- ・森本公民館の建て替え、区民駐車場の整備
- ・森本運動場の整備
- ・三重バイパスの建設
- ・三重生活改善センター下に駐輪場の新設
- ・下三重集会所の修繕
- ・三重グラウンド、周辺フェンスなどの整備
- ・遊具を設置した子どもの遊び場、その他

## ④健康づくりのために

■三重、森本の歴史、文化財、誇れる場所をめぐるウォーキング大会を実施する。

■農道や堤防などをウォーキング道として整備し、ルートや距離を示した案内板を設置する。

■公民館活動などで行っている歩こう会や、グラウンドゴルフ大会を継続するとともに、区民対象の健康づくり講演会などを開き意識向上を図る。

■地区体育協会など各種スポーツ組織の育成支援を行う。

■健康推進員などが中心になり、市総合健診の受診の働きかけを行い受診率の向上を図る。

## ⑤生涯学習について

■公民館活動の充実を図る。

- 各種団体、組織の役員に女性や若者を入れて、組織活性化と人材育成を促進する。
- 退職者、高齢者の経験や知識、能力を地域づくりに積極的に活用する。
- 区や地区社協などが中心になり、ボランティア活動の意義や大切さを広報する。
- 子ども会、婦人会、老人化などの組織の強化を支援する。

#### ⑥働く場の確保について

- 森本工業団地に早く企業を誘致するよう市に要望する。
- 「京丹後森本アグリ株」など農業生産を主とした農業経営組織を構築して農業者の雇用の確保に努める。
- 観光農業や特産物直売所の設置により雇用を確保する。

#### ⑦公共交通の整備について

- バスの運行回数増加と、ワンボックス車の導入も要望する。
- 三重集落内のバス運行とデマンドバス運行の要望をする。
- 三重バイパスの早期着工を要望する。

#### ⑧人口増加対策について

- 下記の対策を実施、または要望して人口増加対策とする。
  - ・地域をあげてUターン、Iターン運動
  - ・若者の流出防止
  - ・移住してきたときのために、地元受け入れ態勢を確立
  - ・森本工業団地に企業誘致など働く場の確保
  - ・農業志望者に農地の確保
  - ・独身者への婚活支援
  - ・古いしきたりや人間関係の改善
  - ・閉鎖的な社会から脱却し、広く住民を受け入れる区民意識の改革
  - ・スーパー、コンビニなどの誘致
  - ・住んでみたい魅力のある地域づくり

#### ⑨その他

- 三重・森本里力再生計画とは別に、それぞれの区の将来計画となる地域づくり計画を策定する。地域づくりの方向性を示し行動指針とする。(再掲)

## 9 今後5年間の重点対策

### (1) 生き生きとした魅力ある地域づくり

- ①地域イベントの継続、活性化
- ②三重、森本区共同イベントの検討、実施（万灯、運動会、農家民泊など）
- ③花いっぱい運動の拡大
- ④地域の歴史や文化財、見どころマップ作成
- ⑤村歌（三重・森本区）の作成
- ⑥情報共有の推進（区民だより、公民館だより、各組織の新聞など発行）

### (2) 地域で支え合う安らぎの地域づくり

- ①子どもの見守り、あいさつ運動の実施
- ②子どもの遊び場づくり
- ③高齢者世帯の生活環境支援（声かけ運動、雪すかし支援など）
- ④地域防災体制の強化（危険マップの作成など）
- ⑤美化運動の強化
- ⑥三重、森本、さらに五十河地域を含めた広域的な自治組織の検討

### (3) 地域資源や宝を生かした地域づくり

- ①農産物の朝市（直販所）、特産品開発
- ②自然保全対策
- ③京カ農場プランの策定
- ④有害鳥獣（イノシシなど）の防護対策の強化
- ⑤林道、山林整備事業の実施
- ⑥農道舗装、農業用水路、共同利用機械など必要な農業用施設の整備

### (4) 安心安全で暮らしやすい基盤づくり

- ①スポーツ、体操など健康増進対策の実施
- ②公民館活動の充実と生涯学習の推進
- ③三重グラウンドの整備、森本公民館の新築、ファブリダムの改修
- ④三重、森本両区の地域づくり計画の策定
- ⑤道路、河川、街灯などの公共施設の整備
- ⑥婚活イベントの実施

# 10 三重・森本地域まちづくり計画の体系

